学会・研修参加報告

2025年度海外研修等参加報告書 2025 ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibitionに参加して

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部
神戸学院大学薬学部
高瀬友貴
Tomoki Takase

はじめに

この度，日本医療薬学会の海外研修の助成により，2025 年 12 月 7 日～10 日に米国ラスベガスで開催された 2025 ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibition に現地で参加する機会を頂きました．ここにその概要をご報告いたします．

ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibitionについて

ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibition は，American Society of Health-System Pharmacists が主催する薬剤師，薬学生，大学教員，テクニシャンなど薬学関連の専門職を対象とした参加者 2 万人規模の国際学術集会・展示会である（**写真 1**）．本会のプログラムには，教育セッション，Residency Showcase（レジデントプログラムのブース出展），企業展示会，薬学生・薬剤師レジデント・フェロー・プロフェッショナルによるポスター発表などがあり，いずれも非常に活気が溢れている．その他，ASHP は世界各国からの参加者を歓迎しており，その一環として，米国外から参加したポスター発表者を招いた International Registrants Gathering and Reception を開催している．

写真 1　2025 ASHP Midyear Clinical Meeting & Exhibition 会場にて（著者）

著者の発表

著者の発表タイトルは「Impact of Drug Shortages on Hospital Pharmacists' Work in Japan（医薬品供給不足の日本の病院薬剤師の業務に対する影響）」である．2024 年 2 月から 4 月にかけて全国自治体病院協議会の会員施設に対してアンケート調査を実施し，その解析結果を元に医薬品の供給不足の現状を発表した．著者は自身が演題登録したプロフェッショナルポスター枠と招待された International

Registrants Gathering and Reception 枠で 2 日間に渡って計 2 回発表を行った．両者ともポスターの前で参加者と個別にディスカッションを行う形式だった．プロフェッショナルポスター枠では，日本の学術大会で見かけるような大ホールで約 200 演題が発表されており，発表者のほとんどは米国の薬剤師だった．一方，International Registrants Gathering and Reception 枠では，ホテルの宴会場のような 100 名程度が収容できる広さの部屋で，米国外から参加した薬剤師 10 名が軽食と飲み物を楽しみながら和やかな雰囲気の中で発表していた．後者のプログラムには一般の参加者だけでなく ASHP の理事会メンバーや他学会の役員も参加し，ASHP が推進する国際交流化の熱意が感じとれた．そこで著者も ASHP や European Association of Hospital Pharmacists（EAHP），International Pharmaceutical Federation（FIP）などの学会の役員をはじめ多くの参加者と発表を通じて交流することができた．

上記 2 種類の発表で，米国，カナダ，フランス，クロアチア，セルビア，シンガポール，台湾，韓国の薬剤師および米国の薬学生（P1 と P4）とディスカッションできた（**写真 2**）．彼らと直接ディスカッションすることで，医薬品供給不足が現在も世界共通の問題であることとその深刻さを肌で感じることができた．

具体例として，「医薬品供給不足は米国ではよく知られているが，日本でも生じていることを初めて知った．」という話や，著者が「日本では公定薬価だが，米国では薬価を自由に設定できるため製薬会社が薬価を上げないのか？」と質問すると，「薬価は製薬会社が自由に設定できるが，製薬会社と保険会社の契約により薬価を上げにくい．これは医薬品供給不足の原因の氷山の一角であり，問題は非常に複雑で解決しがたい．」と回答される場面があった．

また，驚いたことに著者のポスターに引用文献として記載していた論文の著者である EAHP の会長と副会長が，著者の発表を見に来られ，直接ディスカッションすることができた（**写真 3**）．

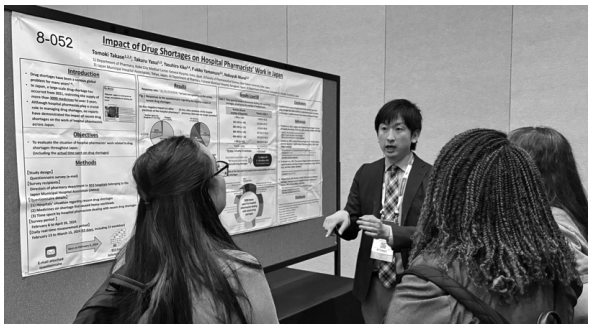

写真 2　ディスカッションの様子（著者）

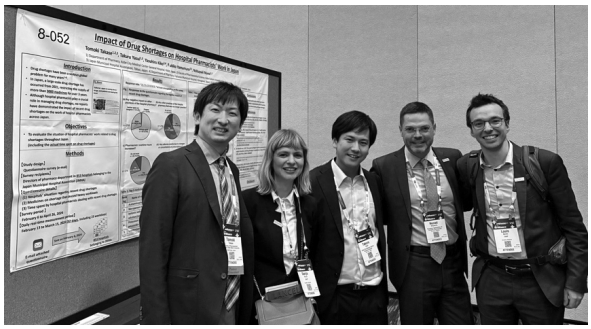

写真 3　（左から）著者，EAHP 副会長の Darija Kuruc Poje 氏，共同演者の安井琢来氏，EAHP 会長の Nenad Miljković 氏，EAHP 財務部長の Louis Bertin 氏．

現地の国際学会ならではの出来事であり，非常に印象深く嬉しく感じた．

その他，ポスター発表で話していると，途中で「ラスベガスにはいつ来たの？」「ラスベガスを楽しんでいる？」「いつ帰国するの？」という雑談をする人も多く，和やかに会話する雰囲気が印象的だった．

おわりに

この度は国際学会への参加の機会を頂きまして，日本医療薬学会の国際交流委員会の先生方，本研究の調査にご協力頂きました各医療機関の皆様に感謝を申し上げます．今後さらに医薬品供給不足の状況が改善することを願っております．また，本報告書が皆様の有益な情報となれば幸いです．なお，本研究の内容は論文として Journal of Pharmaceutical Policy and Practice［PMID: 41509651］に掲載されております．